

「比較言語文化コース（ドイツ語学・ドイツ文学分野）」の

コンセプトと新任教員に期待すること

【教育目標】

ドイツ語学・ドイツ文学分野では、ドイツ・オーストリア・スイス等のドイツ語圏の言語・文学・文化を深く学ぶことを通して、異質・多様なものを理解し寛容かつ多元的に判断することができる受容力と、他者の考えを明晰に理解し自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシーと、今日のグローバル社会において多様な文化を理解し自らの文化を発信できるドイツ語運用能力を持った豊かな国際感覚あふれるネオ・フマニスト（新しい時代の人文人）を育成します。

【教育カリキュラムの特色】

上記の目標を達成するために、本分野では、次の4点を考慮した教育カリキュラムを展開しています。

1. ドイツ語学・文学・文化を学ぶための基盤となるドイツ語に関しては、日本人教員による文法・読解だけでなく、ネイティブ・スピーカーによるコミュニケーション主体の授業による実践的なドイツ語教育を行い、「読む」・「書く」だけでなく、「聞く」・「話す」ための能力も向上させ、コミュニケーションスキルとしてのドイツ語を習得させて、バランスのとれた総合的なドイツ語運用能力を育成します。

また、分野としてドイツ語圏への留学を積極的に支援しており、留学した学生は、分野の密接な支援の下、ドイツ語圏の国々において、コミュニケーション手段としてのドイツ語運用能力を格段に高めるだけでなく、異文化を直接体験し、豊かな国際感覚を身につけます。

2. ドイツ語学とドイツ文学に関しては、まず概論系の「ドイツ言語文化概論 I（古代および中世ドイツ文化・ドイツ語史）」と「ドイツ言語文化概論 II（近現代ドイツ文化・文学史）」において、それぞれの学問領域を概括的に理解し、基礎的な知識と思考法を学習します。

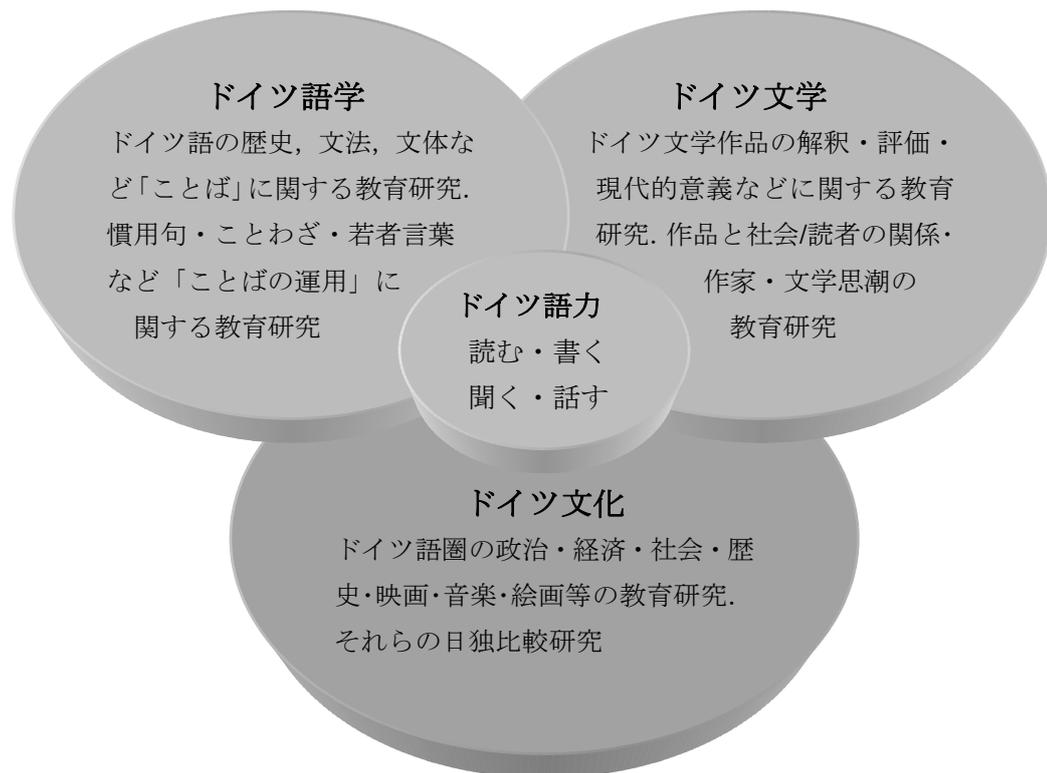
次に特論系の「ドイツ言語文化特論」において、それぞれの概論系の授業で学んだ概括的・基礎的な知識と思考法をもとにして、特定の時代・領域・テーマに的を絞った専門的な知識を習得して、ドイツ的な思考法に対する理解をいっそう深めます。

さらに演習系の「ドイツ言語文化演習」において、学生による発表と討論の実践を通して、概論系と特論系の授業で習得した概括的・基礎的および専門的な知識と思考法を活用して、ドイツ語学とドイツ文学を能動的・実践的に理解し、それぞれの学問領域に関する自己の主張を的確に表現する能力を育成します。

3. 上述の概論系・特論系・演習系の授業および「ドイツ語コミュニケーション」において、関連するドイツ語圏の国々の政治・経済・社会等について、歴史的な問題からヨーロッパ

統合や環境問題への取り組みなど現代のアクチュアルな問題まで幅広く，そして「ドイツ文化事情」においては集中的に，ドイツ語圏の国々の文化を学習し，豊かな国際感覚を育成します。

4. 本分野は少人数教育を旨とするため，教員が学生一人ひとりのその時その時のドイツ語能力を把握することができ，学生一人ひとりにその都度最適な教育を実施することが可能です。



【新任教員に期待すること】

信州大学の理念，人文学部の理念，および上記のドイツ語学・ドイツ文学分野のコンセプトに共感し，本学におけるドイツ語学・ドイツ文学の教育研究に熱意を持って取り組んでいただける方を期待します。

具体的には，以下の3つの観点を兼ね備えた方を望みます。

- 1 創造的で高度な研究を推進するとともに，学生教育および大学（学部）運営に強い意欲と情熱を持っている。
- 2 ドイツ文化・文学領域において幅広い視野のもと，他の教員と協同・補完し合いながら，学術論文作成の指導，および研究に携わることができる。
- 3 地域に対する貢献事業に理解と関心があり，これらを積極的に推進できる。